



ミニボートフェスティバル 気比の浜大会 終了報告

主催:ミニボートフェスティバル 2010 気比の浜大会実行委員会

構成:気比の浜観光開発協会、豊岡港観光協会、豊岡観光協会、
但馬漁業協同組合津居山支所、海の駅ネットワーク、日本舟艇工業会

後援:国交省神戸運輸監理部、国土交通省近畿運輸局、豊岡市、(財)日本釣振興会、
(財)日本海洋レジャー安全・振興協会

開催日:2010年5月22日、23日

土砂降りの雨にもかかわらず 納得の釣果

5月22日(土)、23日(日)の両日にわたって、ミニボートフェスティバル気比の浜大会が開催されました。気比の浜は、日本海に面する山陰海岸の東端近く、兵庫県豊岡市円山川河口に位置する白砂青松の海岸です。有名な城崎温泉からも2kmほどで、夏場は海水浴場として人気のスポットとなっていますが、今回はシーズンオフを利用して、豊岡市をはじめ地元の観光協会、漁協の協力の下、初めてのミニボートフェスティバルとなりました。

22日は晴天に恵まれ、真夏を思わすほどの暑さの中、美しい気比の浜で体験地引網とミニボート体験乗船会が行われ、地元からたくさんの人々がこれに参加してくれました。地引網の中の魚に歓声を上げる子供たちと、ミニボートで海を走る気持ちよさに笑顔をこぼすファミリーで、気比の浜には一日中、人々の姿が絶えませんでした。

一方、**46隻60人**の釣り大会参加者たちは、正午前後にはほぼ全員が気比の浜に集まり、翌日の大会本番に向けてのポイントの下調べを兼ねて思い思いに釣りを楽しんでいました。さらに夕方から公民館で行われたセミナーでは、関西小型船安全協会による安全講習会や地元の釣り師によるポイント情報、小野信昭さんによるシロギス研究報告やマダイの最新釣法の紹介などが行われ、参加者は熱心にスクリーンを見詰め、耳を傾けていました。その後、前夜祭ではバーベキューに舌鼓を打ちながら、釣りやボートの情報交換をしながら、互いに親交を深めていました。

23日は、前日夜から降り出した雨がやまず、釣り大会開始時には本降りとなっていました。気温も前日より10度以上低く、時折吹く強風もあって、釣り大会の開催自体も危ぶまれる中、20隻が受け付け時点でリタイヤしましたが、それでも、釣りをする水域を津居山港内東側だけに縮小し、**28隻**が午前6時、**スタートフィッシング**。ちなみに今回の釣り大会は、シロギス、根魚、青物の3部門で競ってもらうことになっていましたが、前日の下調べ釣りや地引網には、ほとんどシロギスが入っていなかったことから、ほとんどの参加者は、ガシラ、あわよくばアコウを狙って出撃しました。

しかし、スタートフィッシング後も雨は激しさを増し、気温も上がらず、大会参加者たちの難業を察知した本部は、釣りの時間を短縮、11時のストップフィッシングを9時に前倒しました。そして9時過ぎには、ちょっと震えながらも、全員無事帰着しました。

天候が悪かったうえに、釣りの時間も短かったので、釣果が心配されましたが、ルアーで53cmのスズキと30cmのヒラメを釣った中村さん、27cmのガシラ(カサゴ)を筆頭にガシラだけで3kg以上を釣り上げた鹿島さん、48cmのイナダを釣り上げた中屋さんをはじめ、参加者全員が予想以上の釣果をゲット、けっして快適ではない天気の中、出航したかいはあったと満足していました。

なお、シロギスの部は、5尾の合計重量で競うルールとなっていました。釣れたのはなんと鹿島さんの釣った1尾だけ！という結果。それでも優勝は優勝で、鹿島さんは優勝盾のほかに、副賞として高級肉の但馬牛もゲット、釣り大会では、キス1尾もあなどれないことを証明してみせました。

ミニボートフェスティバル気比の浜大会は、あいにくの天候でしたが、参加者全員に楽しんでもらえたようです。

気比の浜大会旗・・・



地引網・・・



体験乗船会・・・





スタートフィッシング前の集合写真です・・・



表彰式…

